

「恵比寿駅前を望むバーにて」 ～昭和 42 年、成人の日学生運動闘士の父～

184 都立広尾高校 鉄道研究同好会

マスター

父「最近はどう？世界情勢は？」

「いらっしゃい。お久しぶりで」

息子「、」

父「水割りを」

父「ハハ。まあいい。俺もお前の頃、おふくろを

マ「かしこまりました」

泣かしてた」

父「ア、息子にも同じものを」

息子「、」

マ「一判りました」

父「けどなもうあの――あの日の思いだけは、

トクトクトク

たのむ。あれだけは一。まあいい」

カウンターに二杯の水割り

息子「、」

マ「お待たせ致しました」

父「止 今日飲もう。」

父「一寸、すまないが二人にしてもらっていいかな」

(笑う)

マ「これは気がつきませんで」

父「めでたい成人式なんだ」

マスター去る。

(間)

父「まずは乾杯。成人式に」

マ「もう一年になりますか？」

息子「、」

マ「生きておられたら、成人式ですなあ」

チン、とグラスの音。

父「……ビール工場に続く石畳、警察はアスファ

父「ちょっと照れるが夢だったな。これが。

ルトで覆い始めたね。息子たちのよう投石させな

お前とバーで飲むのが」

いように」

息子「、」

